

ももさと 通信

2024年
11月25日
第12号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>
E-mail momosato@galaxy.ocn.ne.jp



第20回桃郷まつり開催

法人事務局 明坂 拓哉

2024年11月9日(土)に第20回桃郷まつりを開催いたしました。例年、9月の開催となっていました。近年の温暖化の影響により9月でも猛暑日になることがあるため、今年から11月開催とさせて頂いたことになりました。天気予報では、一時的に雨予報になったこともあり、開催できるのか心配していましたが、当日は気持ちの良い秋晴れとなり、無事に開催することができました。

会場では保護者会や職員、役員、ボランティア等がカレーや豚汁、ポテト、おでん等の模擬店やバザー、遊びのコーナーを実施し、来場者の皆様に楽しんでいただきました。舞台発表では、DRUM輪様による和太鼓演奏に始まり、放デイ部小学生による竹ドラム演奏、桃郷役員によるちんどん、桃郷職員による手遊び、放デイ部中高生によるエイサー、伊都音楽アンサンブル様によるミニコンサートと様々な発表で会場を盛り上げていただきました。グラนด์ファイナールでは、恒例の「まつりだわっしょい」を会場の人々で踊り、お菓子まきをするなどして、盛会のうちに終了することができました。

障害のある子どもが安心して楽しめるお祭りを開催したいという、保護者・法人・職員の共通の願いから始まった桃郷まつりも今年で20回目を迎えることができました。これもひとえに、ご参加・ご協力いただいた皆様のおかげだと感謝しております。これからも、障害のある子どもが安心して楽しめるお祭りを開催したいという、保護者・法人・職員の共通の願いを大切にしていきたいと考えております。

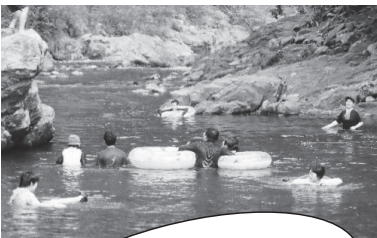
最後に、ご参加・ご協力をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

放課後等デイサービス事業部

桃郷の放課後等デイサービスは4事業所あります。

- ・ 那賀の中高生 青空
- ・ 伊都の中高生 青空つばさ
- ・ 那賀の小学生 粉河青空
- ・ 伊都の小学生 あすなろつばさ

今回は子どもたちが夏休み期間に経験した様々な活動をご紹介します。



川あそび水が
冷たくて気持ちいい～！



防災センター
地震・火災訓練



中高生が
お化け屋敷を開催



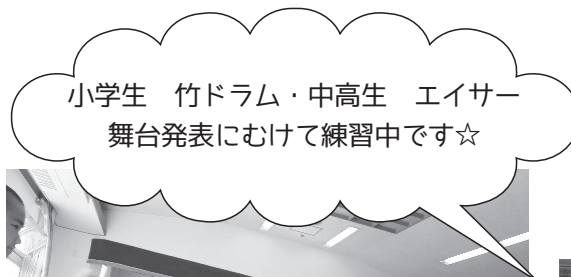
夏祭り



電車にも
乗ったよ 🚆



親子イベント 野球観戦 🏟️



小学生 竹ドラム・中高生 エイサー
舞台発表にむけて練習中です☆



他にもお菓子を買に行ったりクッキングをしたり動物と触れ合ったり…盛りだくさんの経験をしました♪

児童発達支援事業・木の実教室

那賀圏域にある、法人の児童発達支援の玄関口的な役割を担っているのが、木の実教室です。親子で通う教室を月に9～10回おこなっています。手遊びや紙芝居、お話、製作やリズム体操などなど。楽しい事をたくさん計画しています。

10月1日、いつもの保育室を飛び出して、四季の郷公園に行きました。この日の園外活動の様子をお伝えします。

「こうえん こうえん」と足早に広場に向かう子がいました。10月に入っても真夏日のような暑さ、自然と子どもたちは噴水に集まります。間欠的に吹き上がる噴水に子どもたちはドキドキ、ワクワク、大喜び。はじめは水の噴出に逃げ回っていましたが、手のひらで水を受けてみたり、噴出口を押さえてみたり、わざと頭から水を被りにいたり、大はしゃぎです。みるみるうちに服はびしょびしょ。でも笑顔満点でした。



さて、四季の郷といえば、土日にシャボン玉パフォーマンスをしているバブルマンをご存じですか？この日はあいにくの平日で、本物のバブルマンは登場しませんでした。偽物バブルマンが登場しました。ロープを張った二本の棒を駆使して、大きなシャボン玉をつくります。子どもたちは、風によって飛んでいくシャボン玉を掴もうと追いかけました。自分たちもつくりたいと、子どもたちは手軽な道具をもって、小さな小さなバブルマンに変身し、シャボン玉飛ばしを楽しみました。

大小のシャボン玉は、青空をバックにキラキラと虹色に輝きます。その様は、子どもたちが、笑顔いっぱい、楽しく遊んでいるかのようでした。みんなも大空に向かって、成長のつばさを拡げて飛んでいこうね。



全国障害者問題研究会全国大会に参加して

全体会

池添先生のお話で、働くことのはじまり：「どうしたらよいのか（関わり・対応の仕方）」「わからないことだらけ!!」というお話の所で、自分が一年目だった時のことを思い出しました。療育という

仕事の難しさ、今も子どもたちとの関わりに悩むことはたくさんあるなあと毎日感じます。しかし、職場の仲間と相談する中で、またこれまでの経験から自分の引き出しを色々出し、子どもたちと関わり毎日を楽しく過ごしながら今も保育に奮闘中です。子ども達のねがいは「タイ」：でも大人は「サイ」。子どもたちは「やりたい・たべたい・したい」と確かにタイ！大人の「○○しなサイ」という言葉に、「あ〜」。自分の子育ての中でも「サイサイ」言うてるわ〜と反省です。私たちは「子どもの気持ちの通訳者」の言葉に、今まで以上に子どもたちの声や気持ちを聞いて受けとめていける保育士になりたい。そして子ども達のねがいに近づくために：日々頑張りたいと思います。

（つばみ園 江藤真由）

はじめての全障研でした。想像していた以上に人が多くすごく驚きました。

はじめは歌や合唱があり、知っている歌だったので私も楽しめ、会場も楽しい雰囲気ではじまりました。

なんとなくニュース等でみたり聞いたりにして言葉だけ知っていた優生保護法の

お話を聞くことができ、今の時代では考えられないことがたくさんあり胸が締め付けられました。障がい者が安心して子どもを育てられる環境づくりはもっと必要なのではないかと感じました。

また、相談したいと思う相手とは信頼関係が必要で、日々の何気ない会話から信頼関係を築いていく必要があるとお話の中で聞き、これは仕事だけでなくプライベートでもそうだなと思いました。

励ましは時にはプレッシャーになる、大丈夫の言葉で不安が余計に大きくなることもあると聞き、自分自身に置き換えて考えると池添先生のおっしゃる通りだなと思うことがたくさん出てきて、言葉選びにも気をつけようと思いました。池添先生のお話は1時間でしたが、あつという間に時間が経ち私自身とても良い学びの機会になりました。

（法人事務局 畔取有寿）

第2分科会 保育所等および専門施設における保育療育の実践 (1) 発達の遅れ、知的障害ほか

全障研奈良大会に参加して、保育や療育に関わる仕事をされている方々が全国から集まり、いろいろな視点からたくさんのお話を聞かせて頂きました。実践報告では、他府県の療育施設の取り組みを聞いた質疑応答をしたりして、学びを深めることが出来ました。また、6〜8人程

のグループに分かれ事例について話し合ったり、自分の園のことを相談したりする時間もありました。その中で、手を洗いたがらない子どもの話になり、その子についての話し合いが一番印象に残っています。手洗い場にも行きたがらず、泣いたり暴れたりするとのことでした。みんなでその子が「どうすれば手洗い場で手を洗えるようになるのか」について考え、話し合っていました。なかなか良いアイデアが思いつかない状況でした。そこで、「そもそも手洗い場に無理に連れていく必要はあるのか」との疑問が出ました。桶やバケツに水を入れてその子の近くに持って行き、まずは手を洗い身の回りを清潔に保つことの気持ちよさを知ってもらうことから始めればいいのではないかとという提案でした。そこで私は、そういう考え方もあるのかと驚き、「こうしなければならぬ」ととらわれるのではなく、もっと柔軟に考えられるようにしたいと思いました。

（ひまわり園 宮本加奈）

全国どこにいても、つまずきを持った子ども達は、それぞれの地域で熱い思いや気持ちに沿って丁寧に保育をして育っているから、例えば自分の子どもに障害があっても、どの都道府県に住んでも同じように育っていくな〜と少し安心しました。しかし、地域によってやり方、療育と地域のこども園等とのつながりが深い、浅い。連携がある、ない等様々でした。そして市町村や地域柄によっても散歩ひとつとっても、のびのび自然に触れ合い身体を使って大人も一緒に育つという地域もあれば、交通量が激しくて散歩に人手がないと出られないというところ

もあり、両方の話を聞くことが出来て面白い発見でした。分科会で実践の話を聞かせてもらった中で、グループで話し合った際に、発見や、やってみたい、できると思ったことがありよかったです。

レポート発表を聞かせてもらい、どの方も子どもの事を背景までしっかり捉えて、いろいろな方と共有、連携しながら日々保育されて、聞いているだけで子どもの姿、そして先生たちの丁寧さが伝わってきました。明日から隔でいる子の心の動きをもっと丁寧に汲み取ってあげたいな、そしていづみ園の先生方のように全てを受け入れつつもきちんと職員間やその他と連携していくために色々コミュニケーションをしっかりとつけないといけないなと思いました。色々興奮し、子どもの気持ちに寄り添い、気づきを得て、子どもの成長していく話を聞けて、「明日からまた頑張ろう」と力をもらいました。

（つくしんぼ園 笠井衣里）

第3分科会 保育所等および専門施設における保育療育の実践 (2) 自閉スペクトラム症、発達障害

全障研に参加させて頂いて、他府県からの参加も多く、最も遠い所では沖縄から来られた方もいらっしゃいました。療育に関わるお仕事をしている方から大学の先生まで普段関わることの出来ない方々との交流は新鮮でした。実践報告では、砂場で掘り起こし遊びがブームになっている子ども達の姿と水が好きな子の姿をみて、全体での遊びに広げたい先生方の思いがあり、園庭の砂場に温泉を作り、子ども達はスコップで一生懸命穴

を掘って見つけ出す遊びへと繋がったお話しには驚きました。職員の悩みでは、グループリーダーでの遊びを計画していくことの難しさ、実践報告での「ハート探しおじさん」は部屋に隠れている写真のパーツを探して組み合わせていく遊びで、完成すると面白いひげをつけた職員が登場した2つの実践報告から職員自身が楽しむことの大切さに気づきました。どの活動も準備など限られた時間内ですることは大変だけど子ども達の喜ぶ姿が見たい、チャレンジしたい気持ちは素敵でした。

子ども達一人一人、好きなことも苦手なことも違うけれど集団の中で色々な気持ちを持共有して、お互いの姿や思いも見えて知って「今みんな笑ってる、なんか楽しいな」、「またやりたい」と思える経験をたくさん積み重ねていけるように1日1日を大切に保育を考えていきたいと思いました。自分は大人数の前で話すことはとても苦手ですが、参加されている皆さんが深くうなずきながら一人一人の話を聞いている姿に、実際に会って話し合える場は大切だなと思いました。

(ひまわり園 山本ゆりか)

山梨県「R君の強み」のお話では、自閉スペクトラム症は人に合わせるのが苦手、保育者が合わせてあげて安心感を得ていくという言葉が頭に残りました。ついつい大人に合わせて欲しくて、こちらの伝えている事を受け入れて欲しいと思いがちになっていたのを、改めて子どもに合わせる、子どもの思いをしつかりと汲み取るということが大事だと再確認できました。

愛媛県のお話は、子どもの変わった姿

だけを見るのではなく、背景や育ちの経過も見えていくことが大事だと学びました。一人一人子どもの姿を見て感じることはたくさんあり、人それぞれなので、いろんな人の意見も聞いたり自分の意見も今後保育の中で伝えていこうと思いました。

大阪の療育に出会えてよかったという実践のお話は、実際の保護者さんの思いを聞く事ができ、本音で話してもらえてよかったです。また、保育園との並行通園だったり、保育所等訪問でのお話も、びつくりしたこともありましたが、いろんな保育園があることも実際のお話を聞き知ることができました。

それぞれ、全国にはいろんな療育施設、保育施設等たくさんありますが、どの園も子どものためにの思いが強く、保育者にとっても大事なことでたと改めて感じました。色んな保育の発見や対応の仕方など勉強になる事もたくさんあったので良い機会となりました。

(つくしんぼ園 石田佐和美)

第19分科会 障害者運動

実践報告や会場参加者からの取組報告を聞き、これまでの障害者運動があったからこそ勝ち取れたものが数多くあることをあらためて実感することができました。

昭和後期から平成初期にかけ、障害児者施設は措置費制度で運用されており、運用には社会福祉法人の設立や認可施設の建設が必要で、多額の資金が必要だったために施設の数は非常に不足していました。そのため、保護者や地域の方々が中心となり障害児者の居場所づくりに熱心に取り組んでおられました。受け入れ

る場所や日々の運営費は保証されておらず、無認可施設として募金活動やバザーの開催、空き缶収集等で資金を集め、施設職員はボランティア同然の待遇で、本当に大変な苦労があったと思います。

支援学校卒業後の居場所としての無認可小規模作業所に対し、都道府県からの単独の運営費補助はありませんでしたが、認可施設の措置費とは比べものにならない低額なもので行政への補助金増額の声も大きいものでした。和歌山県では「わされん」が中心となり、担当課である県障害福祉課に頻繁に要望の声を届けていました。認可施設が不足していた当時、無認可小規模作業所の果たす役割が非常に大きかったことや、「わされん」等の運動により、その運営状況の厳しさも行政に理解してもらうことができ、補助金の増額にもつながっていました。

このように当事者の声を支援する人たちが拾い上げ、地域を巻き込みながら、みんなで力を合わせて行政に働きかけていくことで様々な制度が見直されてきました。障害者運動はこれまでに数々の成果を上げてきたという事実があります。

しかし、時代の流れとともに障害者運動に取り組んでこられた方々の高齢化に加え、後継者の育成の難しさに直面している現実があるということを今回の分科会の中であらためて感じました。運動の果たす役割は非常に大きいですが、このままいけば先細りになることも見えてきているので、今後も運動を続けていくために、今の時代に合ったやり方をみんなで模索し、早急に運動の革新を図っていくことが必要だと思いました。

(法人事務局 数本幸男)



桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域二一スに應える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

和歌山障害児保育運動連絡会総会 記念講演を聞いて

今回の総会では、今自分が当たり前のように携わっている子どもたちとの日常が、様々な方々のエネルギーと努力によって確立されてきたのだということを感じました。現在では療育の選択があることは当たり前になりつつあるように感じます。しかし、現在子どもたちを取り巻く社会や家庭の状況は本当に多様化し、制度があっても、そして、それを望んでいても選択できないという悩みにも多く直面するようになってきました。こうした悩みを抱えるご家庭の子どもたちにも豊かに育っていただける機会を保障することが、



今後の自分たちの大きな課題であると感じました。自分にできることは本当に少なく歯がゆい思いをすることも多いですが、たくさんの人と繋がって、これから関わる子どもたちの豊かな育ちに少しでも力になっていくことができたらと思います。

(ひまわり園・笠原千愛)

和歌山の障害児保育を築き上げてこられた先生方の生の声を聴くことができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。また、障保連運動の大切さも知ることができました。

船木常務のお話の中で、「障害を持った子を育てたことないやろ。」と涙されたお母さんから学んだ『普通の生活が出来ること』という保護者の願い。普通・当たり前の生活、そんなデイリープログラムのもと、丁寧に保育することの大切さ、療育を改めて振り返ることができました。

また、リーダー制については、お互いの得意を認め合うこと。それが助け合う職場づくりにつながること。出来ないところは補い合い、みんなで見える保育を大切に、これからも実践していきたいです。志保美先生からは、リーダーの日の視野の広がりや、違う視点



から見られる日になる等、再確認させていただきました。大人が生活と遊びを大事にしているか、大人も楽しんでるか、もう一度自分たちの保育を見直したいと思いました。

最後に、常務の「人を愛するということは命を愛するということ、平和を愛するということ」という言葉に重みを感じました。『当たり前の普通のくらし』が一番大切な事…、しっかりと心に残しておきたい言葉のひとつとなりました。

(つばみ園 沖殿佳子)

船木先生のお話の中で、『療育とは』という基本を改めて聞かせていただき、大切さを再確認できました。当たり前の生活、普通の生活を送れる力をつけていくこと、また支援学校であつ

ても当たり前の学校生活を送っていくことは本当に大切だと改めて感じました。

保護者支援の部分は、私にとって苦手な分野ではありますが、療育というのは保護者と一緒に子育てをしていく場ということで、お母さんたちと一緒に悩んでいくことを基として大切にしていきたいと思いました。また、書き初めの紹介の中の『書こうという気持ちにさせること』、『みなぎる力を表現していくこと』の大切さを改めて感じ、今後の製作活動に活かしていきたいと思っています。

講演を聞かせて頂き、色々な立場からのお話を聞くことが出来てとてもよい時間となりました。

(つくしんぼ園 根来緑)



発達講座①

「好き嫌い」を発達的にみると？

ひまわり園

発達相談員 笠原 千愛

相談場面でお会いする1〜2歳児のお子さんのお母さんから「離乳食の時は好き嫌がなく何でも食べてくれたのに…最近好き嫌いが増えて食べられるものが少なくなってきたしまったんです…」というお悩みをよく聞きます。子育て中の親を悩ませる「好き嫌い」発達の的にみるとどのような背景があるのでしょうか？

発達の法則性からみると、2ヶ月頃・8ヶ月頃・2〜3歳頃は、外の世界の「ちがいは」「変化」に敏感になる時期といわれています。裏を返せば外界をとらえる力がしっかりと育ってくる時期とも言えます。そのため、2ヶ月頃にはミルクまたは母乳を拒否したり、8ヶ月頃には分離不安や人見知りが強くなったりなどの姿が見られます。今回は、冒頭で述べたお悩みを受けて、特に2〜3歳頃の発達との関係で「好き嫌い」についてとらえてみたいと思います。

2〜3歳頃は、対概念の獲得により「ちがいは」「変化」に敏感になるがゆえに不安を高めやすい時期です。一方対人面では、自我が拡大・充実に、自己主張を強める中で相手の意図に気づく時期でもあります。敏感に反応を示す姿は、自分の意図をさらに明確にすることにつながり、しっかりとした「自分づくり」を行っていくことにつながります。また、2歳頃からは五感全体が鋭くなり、様々な感覚をより細かに感じられるようになっています。こうした育ちの中で、いろいろなことを区別できるようになり、主体的に自分の「好き」を選び取っていくようになっていきます。「好き」ができるということ

は「嫌い」もはつきりしてくるということと、この時期は「ちがいは」「変化」にも敏感ですから、違ったものや好まないものに対して不安を高め、それが強い拒否となつてあらわれることがあります。それがこの時期の「好き嫌い」です。食べ物以外にも衣服に好みが出てくるなど、様々なところで「好き嫌い」を主張する姿もみられます。多くはそうした自己主張を信頼できる大人に受け止めてもらったり、認めてもらったりする支えの中で、不安を乗り越え幅を広げていきます。

今までスムーズに口にしてきたものを拒否するようになる等、一見マイナスに見える姿は保護者の皆さんを困らせ、びつくりさせてしまうことにもなりますが、こうした現象の背景を改めて考えると、「好き」ができることは生活の中の楽しみが増え、子どもたちの生活が豊かになることにつながっていくのだとわかります。親にとつては忍耐を伴う「好き嫌い」への対応ですが、その先にはたくさん「好き」を内面にもつた、少し大人になった子どもたちの姿がみられるはずです。その姿を想像すると、成長を少し楽しみに待てるようになるかもしれませんね。

社会福祉法人 桃郷

■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つばみ園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236 和歌山県岩出市曾屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246 和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799
くまの子教室	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地2	☎090-3673-9958	

■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	----------------------------------	---------------	---------------

■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427 和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河46番地	☎090-6969-4195	
青空つばさ	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地1	☎0736-22-5551	☎0736-22-5561

■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター

	〒649-6222 和歌山県岩出市岡田649番地2	☎0736-67-8891	☎0736-67-8892
つくしんぼ相談支援室（つくしんぼ園に併設）			
	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

■ 法人本部

事務局	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	------------------------------	---------------	---------------

和歌山県社会福祉功労者表彰式

つばみ園 沖殿佳子園長が 知事感謝状を受賞！

去る令和6年10月10日（木）13時30分から、和歌山市手平にある和歌山ビッグ愛1階大ホールにおいて令和6年度和歌山県社会福祉功労者表彰式が開催されました。式典には、主催者の和歌山県知事や県社会福祉協議会会長のほか、県議会議長や県市長会会長、県町村会副会長が来賓として出席され、厳かな雰囲気の中、盛大に開催されました。

和歌山県知事感謝状の受賞者は、これまで長年にわたり社会福祉や地域福祉活動の推進に貢献されてきた方々で、①民生委員・児童委員功労者、②社会福祉団体役員功労者、③社会福祉事業従事功労者、④福祉ボランティア功労者の4種類があり、沖殿園長は、③社会福祉事業従事功労者として知事感謝状を授与されました。今年度の社会福祉事業従事功労者の受賞は県内でわずか8名となっています。沖殿園長おめでとうございます。



編集後記

今年の夏も暑くて大変でしたね！皆さま、体調は大丈夫でしたか？ようやく秋になったと思ったら、あつという間にもうすぐ冬がやってきます。中期は、運動会、桃郷まつり、クリスマス会と、行事が目白押し。身体の疲れも出てくる頃かと思えますので、たっぷり楽しんだ後は、しっかりと身体を休めて充電してくださいね。

今回から、新コーナー「ちよつとのぞき見」がスタートしました！桃郷の各事業所で、子どもたちが日々どんなふうにごしているのかを紹介できたらと思います。私たち職員も、他の事業所の日常をなかなか見ることができないので、とても楽しみです！さて、気づけば今年もあとひと月ほどで終わります。残りの1ヵ月も、無事に、楽しく過ごせませうように。
(下地)

管理者からの施設紹介⑪

放課後等デイサービス青空つばさ

管理者 高橋 真伊

☆ 施設の概要

沿革：2014年（平成26年）9月開設

住所：かつらぎ町妙寺146-1

定員：10名

利用者：主に支援学校に通う中学1年生～高校3年生

地域：伊都地域

（かつらぎ町・橋本市・九度山町）

活動時間：平日 学校終了時～午後5時30分

土曜日 午前10時～午後3時

長期休暇 午前10時～午後5時

☆ 目標としていること

- ・自分の気持ちを素直に表現でき、僕・私の居場所はここだ！と言えるような場所にする。
- ・豊かな放課後の保障や生活の保障を行う。
- ・仲間と一緒に活動を行う事により、挑戦する気持ちを育む。
- ・保護者とのコミュニケーションに努め、悩みや成長を共有し、支援する

☆ 青空つばさの1日

学校帰りは毎日マイクロバスに乗って青空つばさに来る仲間達。毎回送ってくれた運転手さんには感謝の気持ちを込めて「ありがとう」と言ってバスを降り、放課後活動が始まります。活動内では地域のみなさまから委託された花壇の整備や自分で活動内容を選択して楽しんでいます。時には何もせず職員とリラックスして談話をする中で、自分の気持ちを素直に言葉で表現したり、悩みごとや嬉しかった話などをしてくれる子もいます。職員自身が学生時代に体験した放課後の過ごし方を経験してもらえよう空間づくりに努め、仲間と過ごす中で相手への思いやりの心や感謝の気持ちが育まれるように支援できればと思います。これから社会に出ていく仲間たちが様々な人に愛されるよう社会のルールやマナーを活動の中で習得してもらいたいです。地域の一員として、困ったときにヘルプが出せるようになったり、いつまでも楽しく生活していけるようになればと願っています。